



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：中央銀行総裁の発言

(6月13日付現地紙)

6月13日付現地紙は、トルコ市場からの資金流出に関するトルコ中央銀行バシュチ総裁のコメントについて報じている。概要は以下のとおり。

1. 世界的な市場不安の結果、5月初めから累積で約80億ドルの資金がトルコ市場から流出している。ただし、リラや債券からの資金流出の大部分（3分の2程度）が外的要因によるものであり、国内の要因によるものは3分の1程度に過ぎない。今週火曜日の為替介入は、外国為替レートの変動を抑えるための施策である（6月11日、過度なリラ安進行を嫌った中央銀行は、為替介入を実施し、一時1ドル=1.9リラに迫っていた相場は1.87リラ周辺で推移している）。
2. トルコ経済は、第1四半期において3%の経済成長を成し遂げ、既に回復傾向にあり、第2四半期に入り回復の速度を上げるだろう。インフレ率はベース効果により8月初めから低下する見通し。経常赤字の増加は中期計画に沿ったものである。5月における経常赤字は、4月ほどの水準ではないと見込んでおり、成長率の見直しは想定していない。